

経営比較分析表（令和4年度決算）

兵庫県 香美町

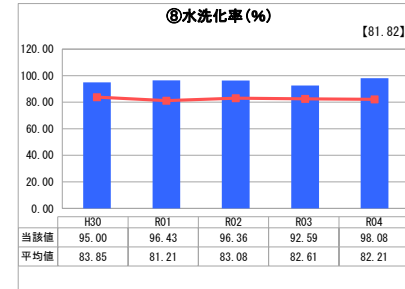
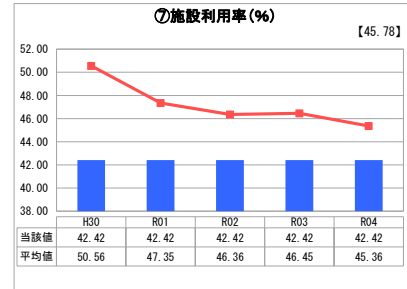
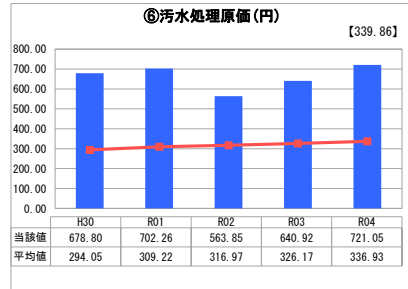
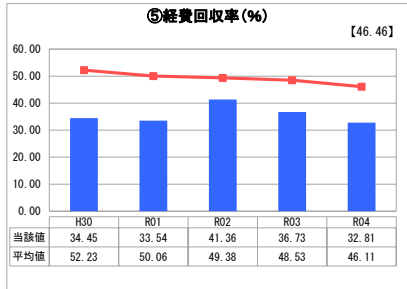
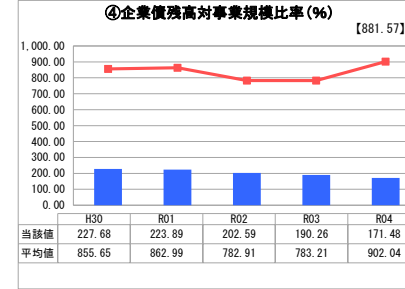
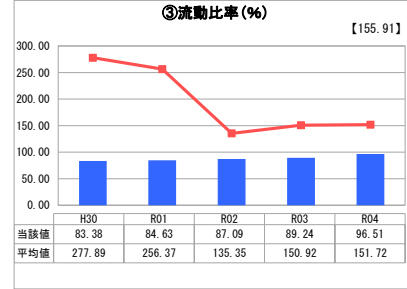
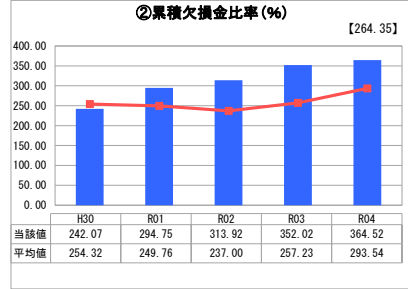
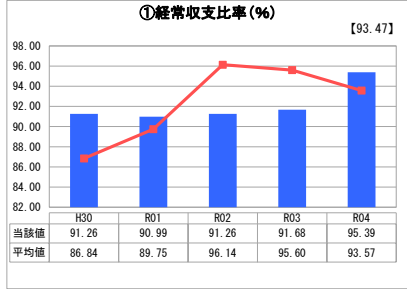
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	15.55	0.33	100.00	4,503

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,024	368.77	43.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
52	0.01	5,200.00

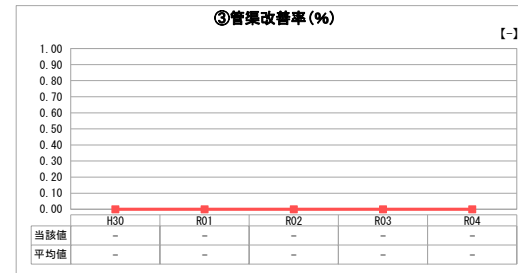
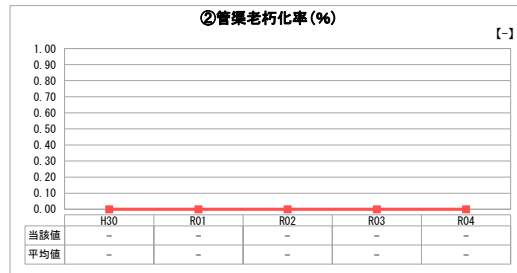
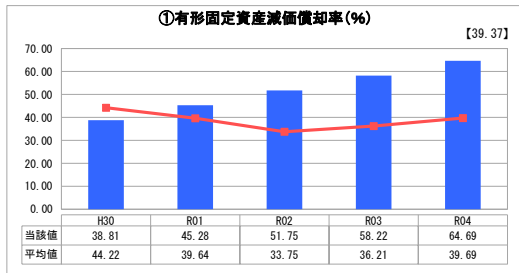
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は95.39%となり、100%未満（単年度収支が赤字）となっているが、今後、比率の分子となる経常収益・分母となる経常費用ともに、大きな増減はない見込みであることから、比率についても横ばいとなる見込みである。

累積欠損金比率は364.52%となり、前年度からは12.50%増加している。今後、経常収支比率が100%未満で横ばいとなる見込みであることから、累積欠損金は年々増加することが見込まれ、累積欠損金比率も増加することが見込まれる。

流動比率は96.51%となり、100%を下回っている（1年以内の支払いに対応する資金が同年度末で不足）が、比率の分母となる流動負債のうち企業債償還金（翌年度償還分）に係る財源は、下水道利用料の外1年以内に償入する一般会計繰入金等を予定していることから、大きな影響はないと考えている。

企業債残高対事業規模比率は、171.48%となり、前年度からは18.78%減少している。当面は、大規模な更新事業等の予定はないことから企業債残高は減少する見込みであるため、当該比率は減少する見込みである。

経費回収率は32.81%となり、100%未満（費用が使用料収入以外（繰入金等）で賄われている）となっており、類似団体平均、全国平均を下回っている。また、汚水処理原価は721.05円となり、類似団体平均、全国平均を大きく上回っている（有収水量1m³当たりの処理費が高い）。今後は、水洗化率（98.08%）を維持することで、経営の健全性が確保できるよう努めていきたいと考えている。

2. 老朽化の状況について

個別排水処理事業（4地区、合併浄化槽27基）は、供用開始（最初：平成8年度、最終：平成21年度）から27年が経過したところで、有形固定資産減価償却率は64.69%で100%を下回っている（保有資産の法定耐用年数に到達していない）ことから、現段階では、機械設備等の定期的な点検整備を行うことで、大規模な更新事業等を行う必要はないと考えている。

全体総括

供用開始（最初：平成8年度、最終：平成21年度）から26年が経過したところで、水洗化率は98.08%となっている。

水洗化率の維持による有収水量、使用料収入の確保が大きな課題となっているが、今後は人口減少等の影響から本事業の運営に必要な財源の確保が課題となっている。

当面は、下水道事業資本費平準化債発行の継続による企業債元金償還金の財源確保、財政課との協議による一般会計繰入金金の確保等、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」に基づく運営を進めることで、本事業の現金による収支が均衡するよう、運営に必要な財源を確保していきたいと考えている。

なお、本町では、平成20年度から計3回（平成20年10月、平成23年7月、平成26年7月）の使用料改定を行っている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。